

千葉教育

梅

令和2年度
No.665

千葉の子どもたちの未来のために

特集

外国語教育・外国語活動の指導の在り方

○シリーズ 現代の教育事情

敬愛大学国際学部国際学科教授・英語教育開発センター長 向後 秀明
文部科学省初等中等教育局視学官 直山木綿子
県教育庁教育振興部学習指導課
松戸市教育委員会指導課

○提 言

NPO全国・海外子女教育・国際理解教育・研究協議会
会長 滝 多賀雄



千葉県総合教育センター

- ◆学校自慢 かしこく・やさしく・たくましく 船橋市立豊富中学校長 川崎 博樹
 ◆提言 児童生徒の視野を広め、思考を深め、夢を与えられる教師に NPO全国・海外子女教育・国際理解教育・研究協議会会長 滝 多賀雄…2

シリーズ 現代の教育事情 外国語教育・外国語活動の指導の在り方

- 日本社会における英語の存在と子供たちの未来を切り拓くサポートとしての英語教育 敬愛大学国際学部国際学科教授・英語教育開発センター長 向後 秀明…4
 ■新学習指導要領で求められる外国語教育の指導の在り方 文部科学省初等中等教育局視学官 直山木綿子…6
 ■ちばっ子の未来輝く外国語教育 県教育庁教育振興部学習指導課…8
 ■グローバル化する社会で活躍できる児童生徒の育成を目指して 松戸市教育委員会指導課…10

私の教師道

- 学校を創る 生徒たちのために今できることを 流山市立おおたかの森中学校校長 大島小百合…12
 ■学校を支える 地域・学校の特性を生かす～自分らしさを発揮できる児童の育成を目指して～ 勝浦市立勝浦小学校教頭 塩田 茂嗣…14
 ■学校を動かす 主幹教諭としての自分自身を振り返って 船橋市立船橋中学校主幹教諭 金坂 卓城…16
 ■子供を知る 話すことの大切さ 館山市立館山幼稚園教諭 大砂 真美…17
 ■子供を知る 子供たちの思いをくみ取るために 県立夷隅特別支援学校教諭 土橋 雄次…17
 ■授業を創る キャリア教育の視点を取り入れた理科学習 大網白里市立瑞穂小学校教諭 石井知愛子…18
 ■授業を創る 主体的に学ぶ生徒を育む外国語授業 印西市教育センター指導主事 野原 智…20

活・研究 長期研修生からの報告

- 小学校編 児童のプログラミング的思考の育成ー総合的な学習の時間におけるプログラミング教育の授業開発を通してー 松戸市立矢切小学校教諭 田嶋 佑基…22
 ■小学校編 地層学習における空間認識能力の育成に関する実践的研究ー小学校第6学年「土地のつくりと変化」の学習によるパノラマ教材の活用ー 芝山町立芝山小学校教諭（前山武市立山武北小学校教諭） 高松 真人…23
 ■中学校編 即興で「やり取り」できる力を育成する帯活動の開発ーSmall Talkでつなぐ小中の英語指導ー 習志野市立第一中学校教諭（前八千代市立睦中学校教諭） 河瀬 農…24
 ■中学校編 歴史理解と見方・考え方を育成する中学校歴史学習ー2つの学習問題を設定した単元開発を通してー 千葉大学教育学部附属中学校教諭（前市原市立加茂中学校教諭） 野村 優太…25

ケーススタディ

- 小学校における教科担任制について 和洋女子大学特任教授 柴内 靖…26

保幼小の連携

- 友達と協力して遊べる子を目指してー協同的な遊びから得られる非認知能力の向上とその発展性を願ってー 前佐倉市立佐倉幼稚園長 古嶋 美文…28

教育の情報化

- コロナ禍における情報モラル教育 県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当…29

情報アラカルト

- 令和2年度全国学力・学習状況調査結果の活用について 県総合教育センター学力調査部…30
 ■令和2年度千葉県総合教育センター・千葉県子どもと親のサポートセンター研究発表会御案内 県総合教育センター・県子どもと親のサポートセンター…31
 ■令和2年度調査研究事業 高等学校の新教科「理数科」に関する研究 県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当…32
 ■令和2年度調査研究事業 小・中学校理科における探究的な学習に関する研究 県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当…33

学校 NOW！

- 先進校の取組 公立夜間中学とは～「来てくれてありがとう」の中学校～ 松戸市立第一中学校みらい分校…34
 ■学校歳時記 学校に留め置く 千葉大学教育学部特任教授 天笠 茂…36
 ◆発信！特別支援教育 県立特別支援学校の教育としての医療的ケア 県教育庁教育振興部特別支援教育課…38
 ◆千葉歴史の散歩道 発掘された総の国 in 柏・流山 開催中！ 県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 牧 武尊

道 標

急速にグローバル化する社会にあって、外国語によるコミュニケーション能力の向上は、喫緊の課題である。周知のとおり、本年度から全面実施された小学校学習指導要領では、中学年に外国語活動、高学年には外国語科が導入された。新学習指導要領は、今後、中学校、高等学校と順次全面実施となり、各学校は発達の段階に合わせて外国語教育の更なる改善・充実を図っていくこととなる。

中教審答申では、これまでの外国語の指導について、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じること、学校間の接続が十分とは言えないこと、「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことなどの課題が指摘されている。また、生徒の英語力については、習得した知識や経験を活かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することに課題があることが指摘されている。

新学習指導要領における、外国語活動・外国語科の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することである。

本県においては、「第3期千葉県教育振興基本計画」の施策「人生を主体的に切り拓くための学びの確立」における現状と課題において、「グローバル化の一層の進展が予想される中、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で自信を持って自らの意見を述べ、他者と交流・共生していくために必要な力を育成することが求められる。」としている。

ここでは、移行期間を含めたこれまでの実践を踏まえつつ、これからの時代を生きていく子供たちに求められている力や、それを育成するためのよりよい取組とはどのようなものか、改めて考えていきたい。